

McAfee Data Loss Prevention Endpoint

データ漏えいを防ぎましょう

知らないうちにデータが盗まれていませんか？顧客情報、知的財産、財務データ、個人用のファイルが外部に流出しているかもしれません。侵入者はハッカーだけとは限りません。従業員の不注意で情報が漏えいしている可能性もあります。故意かどうかにかかわらず、データ漏えいはメール、Webへの送信、USBドライブ、クラウドへのアップロードなど、あらゆる経路で発生する可能性があります。また、漏えいによる被害は甚大なものになります。毎日多くの企業で大規模なデータ漏えいが発生しています。データ侵害による被害とその修復にかかる費用は莫大なものになります。Ponemon Institute 2014 Cost of Data Breach Study (2014年データ漏洩のコストに関する調査)¹⁾によると、重要な情報や機密情報が含まれるレコードの流出または盗難でレコード1件あたりの被害額は平均で201ドルになります。企業が賠償等で支払った費用の平均総額は590万ドルに上ります。データ漏えいを簡単かつ効率的に阻止する方法はないのでしょうか。企業や政府のコンプライアンスを満たすと同時に、知的財産を保護する方法はないのでしょうか？このような課題を解決するのがMcAfee® Data Loss Prevention Endpoint (McAfee DLP Endpoint) です。

エンドポイントからのクラウドデータ保護

McAfee DLP Endpointは、データの分類、暗号化、モニタリング、およびブロック機能をMcAfee Cloud Data Protectionと統合することにより、情報を保護します。企業は、機密性の高いデータのクラウドへの送信にデータの保護ポリシーを施行してコンプライアンスを示しています。エンドポイント、ネットワーク、クラウド間でポリシーや可視化された情報を共有することにより、すべての環境でデータ保護を普及することができます。

高度な保護能力

McAfee DLP Endpointは、リムーバブルストレージデバイス、クラウド、メール、インスタントメッセージング、Web、印刷、クリップボード、スクリーンキャプチャ、ファイル共有アプリケーションなど、漏えいの可能性のあるすべてのチャネルを保護する包括的なセキュリティ対策を提供します。

主な特長

- **エンドポイントからのクラウドデータ保護:** クラウドに送信している機密性の高いデータの可視化とリアルタイムモニタリングのために、McAfee Cloud Data Protectionに統合。
- **高度な保護能力:** フィンガープリンティング、分類、タグ付けにより、知的財産や企業秘密などの重要な非構造化データを保護します。
- **集中管理:** McAfee® ePolicy Orchestrator® (McAfee ePO™) ソフトウェアとの統合により、ポリシーおよびインシデント管理が合理的にできます。
- **コンプライアンスの維持:** メールを送受信、クラウドへの送信、リムーバブルメディアへのダウンロードなど、ユーザーの日々の操作を監視し、コンプライアンスを維持します。
- **ユーザー教育:** ポップアップでリアルタイムにフィードバックを表示し、セキュリティ意識を高め、企業の方針を共有できるようにします。

データシート

McAfee DLP Endpointキーの機能は次のとおりです:

- 保存場所に関わらず、PC、Macに対応したパリティ機能は、最も機密性の高いデータを保護します。
- 手動分類 — エンドユーザーが手動で文書を分類し、従業員にデータ保護の意識付けを行い、管理作業を軽減できます。
- ユーザーによるスキャンと修復の開始によって、ユーザーがエンドポイントの検出スキャンを実行し、修復作業を行うことができます。
- ディクショナリ、正規表現と検証アルゴリズム、登録文書、サードパーティのユーザー分類ソリューションのサポートなど、柔軟な分類が可能になりました。
- 起源に基づいた文書を識別するための一意のタグ付けの技術により、Web アプリケーション、ネットワーク アプリケーション、ネットワーク共有からの重要な情報の複製、名前の変更、または組織外への送信を阻止できます。
- 高度な可視性により、リモート デスクトップと仮想デスクトップインフラストラクチャ(VDI) ソリューションを保護します。

集中管理

McAfee ePOソフトウェアとの統合により、McAfee DLP Endpointの配備を一元的に行い、管理作業を簡単に行うことができます。McAfee DLP Endpointの管理インターフェースも刷新されました。再利用可能なルール セットにより、柔軟性だけでなく、ユーザーの操作性も向上しています。

主な機能は次のとおりです。

- McAfee ePOソフトウェアとの統合により、McAfee DLP Endpointで管理作業を行うためにInternet ExplorerのActiveXコントロールをインストールする必要がなくなりました。
- 複数のポリシーと再利用可能なルール セットを使用して、組織全体に複数のDLPポリシーを定義したり、事務所、部門、法規制などに応じてポリシーを作成することができます。
- インシデント管理の柔軟性が向上しました。インシデント プロパティ(デバイスのシリアル番号、エビデンス ファイルの名前、グループなど)ごとにクエリー、フィルタリング、表示を行うことができます。
- イベント管理と監査を一元的に行うことができます。
- ポリシー管理やインシデント レビューで、役割ベースのアクセス制御(権限の分担)が改善されました。
- ヘルプ デスクのインターフェースに簡単にアクセスできます。

対応プラットフォーム

- Microsoft Windows 7 SP1以降、EnterpriseおよびProfessionalエディション、32ビット/64ビット
- Windows 8/8.1以降 (Enterprise、Professional)、32ビット/64ビット
- Windows Server 2008 R2/2008 SP2以降、32ビット/64ビット
- Windows Server 2012/2012 R2以降、64ビット
- Mac OS X Mountain Lion 10.8.5
- Mac OS X Mavericks 10.9.5
- Mac OS X Yosemite 10.10

対応ブラウザ

- Internet Explorer バージョン 8から11
- Mozilla Firefox 34以降
- Google Chrome 31以降

McAfee ePOソフトウェアとエージェント

- McAfee ePOソフトウェア 4.6.9、5.1.1
- McAfee Agent for Windows 4.8/パッチ2、5.0
- McAfee Agent for Mac 4.6/パッチ3、4.8/パッチ2、5.0

データシート

コンプライアンス強制の維持とエンドユーザーの教育

組織の境界が曖昧になっている現在、企業にとってコンプライアンスの維持は難しい課題になっています。McAfee DLP Endpointは、日々のユーザーの操作を監視するだけでなく、ユーザーの教育を行い、コンプライアンス対応を支援することもできます。ボタンをクリックすると、McAfee DLP Endpointが監査担当者、上級管理者、コンプライアンス対応の関係者に詳細なレポートを送信します。また、テンプレート化された法規制とユースケースに関するポリシーにより、コンプライアンスを簡単に維持することができます。ユーザーがポリシーに違反する操作を行うと、ポップアップが表示され、フィードバックがリアルタイムで提示されます。これにより、セキュリティに対する意識を向上させ、セキュリティに対する企業文化を高めることができます。

詳細を見る

詳細については、www.mcafee.com/dlp-endpointをご覧ください。



〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-12-1
渋谷マークシティウエスト20F
Tel. 03-5428-1100(代表)
www.mcafee.com/jp

1. 2014 Cost of Data Breach Study: United States (2014年データ漏洩のコストに関する調査：米国); Ponemon Institute, 2014年9月

McAfee、McAfeeのロゴ、ePolicy Orchestrator、McAfee ePOは米国法人McAfee, LLC または米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright © 2017 McAfee, LLC. 3001_0517
2017年5月